



年 組 名前

# 道新でワークシート

## 品質追求 築く

全国販売されるロングセラーや大手メーカーの食品に、ジャガイモや小麦、ビートなどオホーツク管内産の農産物が使われているケースが少なくない。十勝管内と並ぶ日本有数の畑作地帯で、大量生産が引き合いの多い理由だが、品質や生産性アップを常に目指してきた改善策も評価される。製品に産地が明示されることが少なく、あまり知られていないが、日本の食卓を支えるオホーツクの食材の底力を探る。(和賀豊)

日本を代表するポテトチップスといえば、カルビー(東京)の商品。その発祥はオホーツクにある。1975年、小清水町の「あみ印食品」の工場を買収、製造を始めた。原料のジャガイモの約9割を調達する子会社カルビーポテト(帯広)によると8割以上は道内産。オホーツク産はトッ

### オホーツクと十勝の畑作3品と全道に占める割合

	オホーツク	十 勝
作付け面積		
小麦	2万8900ヘクタール(23.5%)	4万4100ヘクタール(35.9%)
ジャガイモ	1万7300ヘクタール(33.9%)	2万1800ヘクタール(42.7%)
ビート	2万4000ヘクタール(40.2%)	2万6300ヘクタール(44.1%)
収 穫 量		
小麦	16万4800トン(31.4%)	15万1400トン(28.9%)
ジャガイモ	69万7300トン(36.6%)	80万5800トン(42.3%)
ビート	136万5000トン(42.8%)	130万8000トン(41.0%)

※2016年農林水産統計(ジャガイモは15年)。%は全道に占める割合

プの十勝産に迫る量を使う。ジャガイモを加工したでんぷんも人気だ。大阪前田製菓(大阪)の焼き菓子ボーロは斜里、小清水などのものを100%使用。前田重和社長は、色や口溶けなど理想のボーロにするのに欠かせないと話す。「マロニーちゃん」のテレビCMでおなじみの乾麺マロニー(大阪)にも、オホーツク産のでんぷんが含まれている。レトルトカレーの代名詞といえる大塚食品(同)のボンカレーは、タマネギの一部に生産量日本一の北見地方をはじめオホーツク産を取り入れる。食品加工業グリーンズ北見があめ色になるまで炒め、出荷する。

## 大量・安定生産にも高評価

麦は色合いに影響する灰分が低く、製粉時の歩留まりが良い。日本一の品質だから輸送費をかけても買う」と絶賛する。北海道と九州以外のイオングループ各店で販売される「トップバリュ」ブランドのあんパンは、北見市常呂町産の小麦を100%用いる。オホーツクの農産物が大手メーカーに重宝されるのは、大量供給が可能だからだ。小麦、ジャガイモ、ビートの主要畑作3品目(2016年)の収穫量は十勝産と肩を並べる表。

注目はこの年、作付面積当たりの収穫量が十勝産を上回っている点。日照時間が長く雨が少ない畑作の好条件だけでなく、良いものを、より効率的に作るうとする現場のたゆまぬ努力が農業王国の地位を築いた。

2018年10月08日 朝刊 北見・オホーツク面 (記事は再編集しています)

①見出しの口には当てはまる言葉を、記事の中の言葉から探しなさい。

②記事の中に「作付面積当たりの収穫量が十勝産を上回っている」という記述がありますが、それを確認する方法として正しいものを二つ選びなさい。

- ア 小麦とビートは、両方ともオホーツクのほうが作付面積が小さく収穫量が多いので、作付面積当たりの収穫量が十勝産を上回っているといえる。
- イ ジャガイモは十勝のほうが収穫量が多いので、オホーツクの作付面積当たりの収穫量が十勝産を上回っているかどうかはわからない。
- ウ オホーツクと十勝の収穫量の%を足すと、二つの地域の北海道に占める割合がわかるので、実際に計算してみる。
- エ 収穫量を作付面積で割ると、1ヘクタール当たりの収穫量が計算できるので、実際にオホーツクと十勝の収穫量を計算して比較してみる。